



令和5年度

水稻の生育概況

彩の国
埼玉県
vol.4

埼玉県マスコット
「コバトン」

(令和5年9月7日現在)
埼玉県農業技術研究センター

要約

◎気象概況：8月の平均気温はかなり高かった。降水量は平年並であった。日照時間は平年よりも多かった。

◎生育状況：早期栽培の中早生種の出穂期は平年より5日程度早く、穂数は平年よりわずかに多い傾向となった。出穂期以降登熟期間が高温に遭遇したため白未熟粒などの高温障害の発生が懸念される。

早植栽培の晩生種の出穂期は平年より3日程度早く、穂数は平年に比べ、やや多い傾向となった。

普通期栽培の中早生種の出穂期は平年より3日程度早くなった。

◎今後取るべき技術対策

- ・水管理：出穂30日後までは間断かん水を励行し、早期落水は絶対行わない。
- ・病虫害防除：病虫害防除所の9月予報では「斑点米カメムシ類」の発生量が「多」としていることから農薬使用基準の収穫前日数に注意して防除を行う。
- ・適期収穫：品種ごとの登熟積算気温と籾水分などを参考に早めの収穫作業を心掛ける。倒伏した場合は穂発芽の危険性が高まるので、早刈りや刈分けで品質低下を防ぐ。

1 気象の概況

8月の平均気温は、全半旬で平年値を上回り、月平均では平年比+2.6℃とかなり高く、熊谷地方气象台の観測史上1位の値となった。降水量は、第2、3、5半旬にまとまった降雨があったが、月合計では平年比68%と平年並であった。日照時間は全半旬で平年値を上回り、月合計では平年比139%と多かった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 早期栽培(5月1日植 コシヒカリ)

出穂20日後調査では、稈長は平年より短く、穂長は平年比98%、穂数は平年比109%、風乾重は平年比101%であった。成熟期は平年より2日早まった。出穂後、高温に推移したため、白未熟粒の多発が懸念される。

イ 早植栽培（5月19日植 彩のかがやき）

高温の継続により葉位の進展は早く、主稈総葉枚数は0.5枚多かったものの、出穂期は平年より3日早まった。出穂後20日調査時点で稈長は平年比96%、穂長は平年比100%、穂数は平年比112%、風乾重は平年比122%であった。出穂後、高温に推移したため、白未熟粒の多発が懸念される。

また、出穂期間にあたる第2、3半旬の降雨と高温の影響により、もみ枯細菌病の発生が認められた。

ウ 普通期栽培（6月26日植 彩のきずな）

生育期間全般が高温多照で経過したため、莖数は多く葉位の進展は早く推移した。中干し期間に降雨がほぼなく、強い中干しとなり、草丈の伸長は抑制気味で平年より短い。主稈総葉枚数は平年並で、出穂期は平年より3日早まった。

（2）県内全般

生育期間を通じて気温は高く、日照時間も多く推移したため生育は良好で、全ての作型で生育が早まった。なお、早期・早植栽培の葉色が平年に比べて常に淡い傾向で推移していた。

早期栽培は出穂期が平年に比べ5日程度早まり、収穫作業の進捗も平年より早まっている。しかし、出穂後の気温が著しく高く高温障害の発生が懸念される。また、斑点米カメムシ類の発生が多く玄米の品質低下が懸念される。

早植栽培は早期栽培同様に生育が早まり、出穂期も平年に比べ3日程度早くなった。早期栽培同様に、出穂後の気温が著しく高く高温障害の発生が懸念される。なお、一部の地域で斑点米カメムシ類の発生が多く品質の低下が懸念される。

普通期栽培も他の作型同様に生育が早まり、出穂期は平年に比べ3日程度早まった。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

気象庁が8月31日に発表した関東甲信地方の向こう1か月の天候の見通しでは、気温は高い見込みで、週別での平均気温は1週目が高い確率が80%、2週目は高いが80%、3～4週目も高いは60%の見込みである。

降水量、日照時間ともに、ほぼ平年並の見込みである。

なお、8月22日に発表した関東甲信地方の3か月予報でも10月の気温は高い確率が50%の見込みである。

（2）生育予測

ア 早期栽培

収穫期の終盤を迎えている。登熟期間の気温が高く推移したため、高温障害の発生が懸念される。

イ 早植栽培

収穫作業が徐々に進んでいる。出穂後の登熟期間の気温が高く推移していることから、高温障害の発生が懸念される。

ウ 普通期栽培

登熟期間の気温が高いと予報されていることから収穫開始時期が早まることが予想される。しかし出穂後 20 日間の日平均気温が 27℃を超えるような環境下になると高温障害の発生が危惧される。

4 今後取るべき技術対策

(1) 早期栽培

天気予報等に注意し計画的な収穫を行う。また、高水分籾を急速に乾燥すると胴割米の発生が増加し品質が低下するので注意する。

倒伏が発生した場合、成熟期に達しているほ場では速やかに刈取りを行い、登熟ムラのあるほ場ではできるかぎり刈分けを行い、品質低下を防ぐ。

(2) 早植栽培

ア 水管理

根の活力維持のため出穂後 30 日までは間断かん水を徹底する。土壤にヒビが入るような断水は断根によるダメージを与え、養分吸収を阻害するので避ける。また早期落水は外観品質の低下や粒張不良など著しい悪影響を与えるので避ける。

イ 適期収穫

収穫作業が円滑に行えるよう、ほ場や農業機械の準備を早めに行い、週間天気予報等を参考に作業計画を立てて効率的に作業を行う。

特に高温時には登熟日数が極端に短縮することもあるので十分注意する。品種ごとの登熟積算気温を基に、帯緑籾割合や籾水分を参考にして早めの収穫作業を心掛ける。刈り遅れは着色粒や胴割粒の発生が増加し外観品質を低下させるので注意する。

また、収穫時の籾水分が高くばらつきが大きい場合には、一晚程度通風乾燥を行い、籾水分をならしてから火力乾燥を行う。

(3) 普通期栽培

ア 水管理

根の活力維持のため出穂後 30 日までは間断かん水を徹底する。土壤にヒビが入るような断水は断根によるダメージを与え、養分吸収を阻害するので避ける。また早期落水は外観品質の低下や粒張不良など著しい悪影響を与えるので避ける。

イ 病虫害防除

8月 25 日に病虫害防除所が発表した令和 5 年度病虫害発生予報第 5 号

(9月予報)では斑点米カメムシ類の発生量が「多」と予報されている。

多発生が認められた場合は速やかに防除を実施する。薬剤防除の際は、薬剤のラベルを必ず確認し、農薬使用基準の収穫前日数を越えないよう注意する。

ウ 適期収穫

品種ごとの登熟積算気温を基に、帯緑籾割合や籾水分を参考にして早めの収穫作業を心掛ける。刈り遅れは着色粒や胴割粒の発生が増加し外観品質を低下させるので注意する。

また、収穫時の籾水分が高くばらつきが大きい場合には、一晩程度通風乾燥を行い、籾水分をならしてから火力乾燥を行う。

解析・考察に用いた具体的数字

1 気象表

8月

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	30.3	27.7	37.1	33.1	25.4	23.8	0.0	20.3	49.2	30.2
2	29.3	27.8	34.6	33.1	26.2	23.8	38.5	21.6	32.2	29.8
3	29.2	27.5	34.5	32.7	25.7	23.6	61.5	27.2	31.6	27.6
4	29.9	27.0	35.7	32.1	26.3	23.3	2.5	32.8	33.4	26.2
5	29.9	26.6	35.2	31.6	26.2	22.9	22.5	36.8	39.7	25.4
6	29.9	26.2	35.6	31.1	26.0	22.5	0.0	42.2	49.3	29.4
平均	29.7	27.1	35.4	32.3	26.0	23.3	合計 125.0	183.3	235.4	169.3

注)半旬数値は熊谷地方気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台測定値。
平年値は1991～2020年の気象台測定値。

2 早期栽培(5月1日植 コシヒカリ)

(1) 出穂20日後調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/株)			風乾重(g/100本)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
80.2	89.8	89	19.8	20.1	98	22.8	21.0	109	2189	2165	101

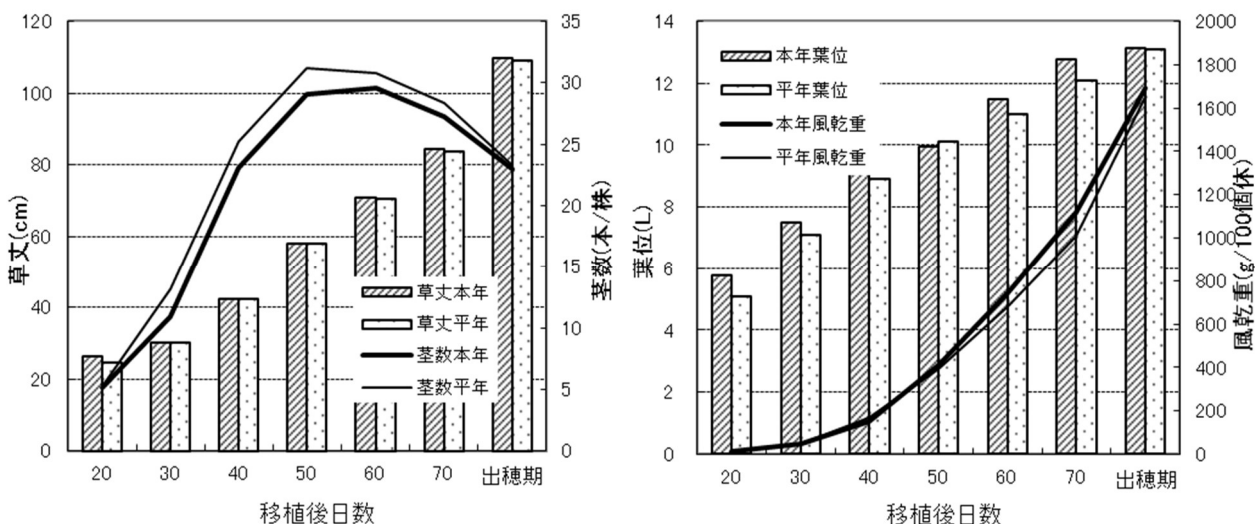
注)平年値は平成11年～令和4年の平均(H22を除く)。平年比は%
うち、稈長の平年値は平成17年を除く。

(2) 出穂、成熟

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
7/14	7/21	-7	7/20	7/25	-5	7/24	7/28	-4	9/1	9/3	-2

注)平年値は平成11年～令和4年の平均(H22を除く)。平年比は%

(3) 生育経過



3 早植栽培（5月19日植 彩のかがやき）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
80	99.2	102.0	97	20.9	20.0	105	14.6	14.2	0.4	2064	1732	119
出穂期	109.4	110.3	99	18.7	19.5	96	14.7	14.2	0.5	2178	1935	113

注) 平年値は平成12年～令和4年の平均。 平年比は%

（2）出穂 20 日後調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/株)			風乾重(g/100本)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
75.7	79.1	96	20.8	20.9	100	20.0	17.9	112	2804	2298	122

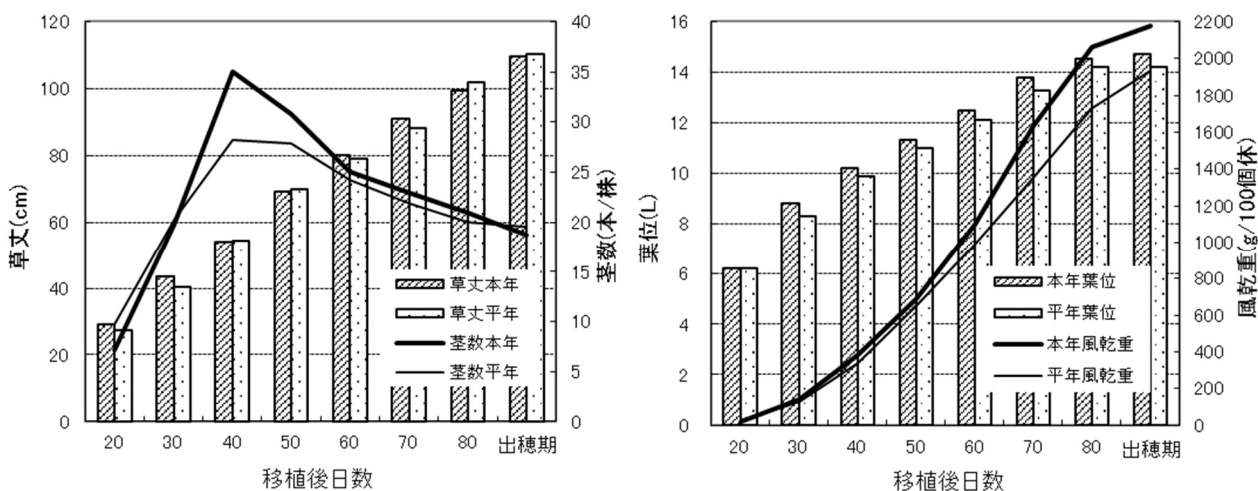
注) 平年値は平成12年～令和4年の平均。 平年比は%

（3）出穂、成熟

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/7	8/9	-2	8/10	8/13	-3	8/12	8/15	-3	9/27		

注) 平年値は平成12年～令和4年の平均。 平年比は%

（4）生育経過



4 普通期栽培（6月26日植 彩のきずな）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
40	62.5	74.5	84	27.6	24.4	113	12.2	11.7	0.5	733	687	107
出穂期	75.0	92.2	81	24.6	21.8	113	13.0	12.9	0.0	1154	1196	96

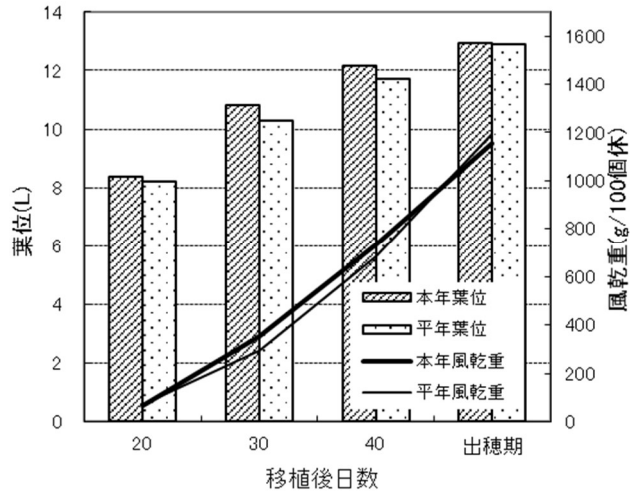
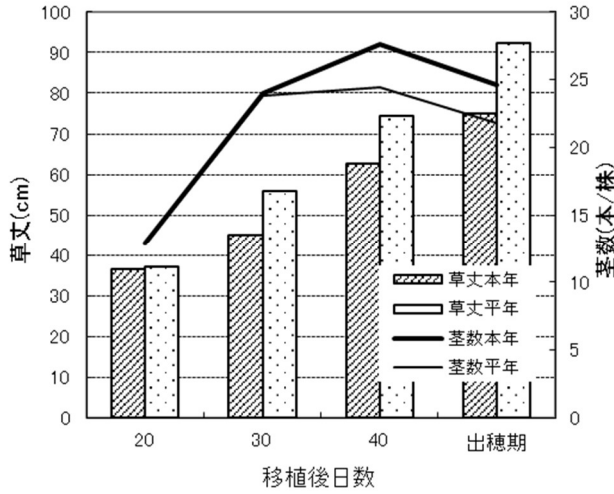
注) 平年値は平成27年～令和4年の平均。 平年比は%

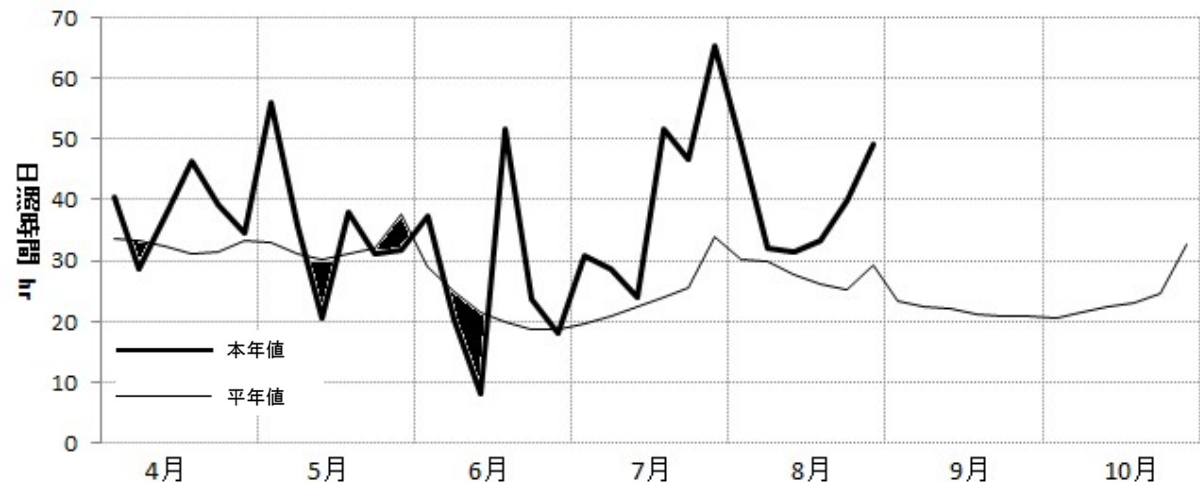
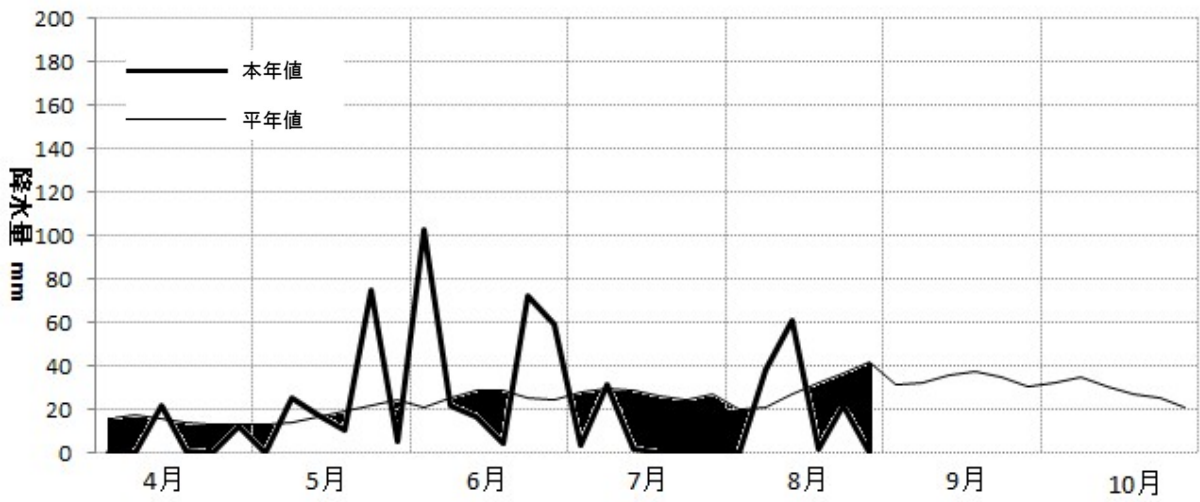
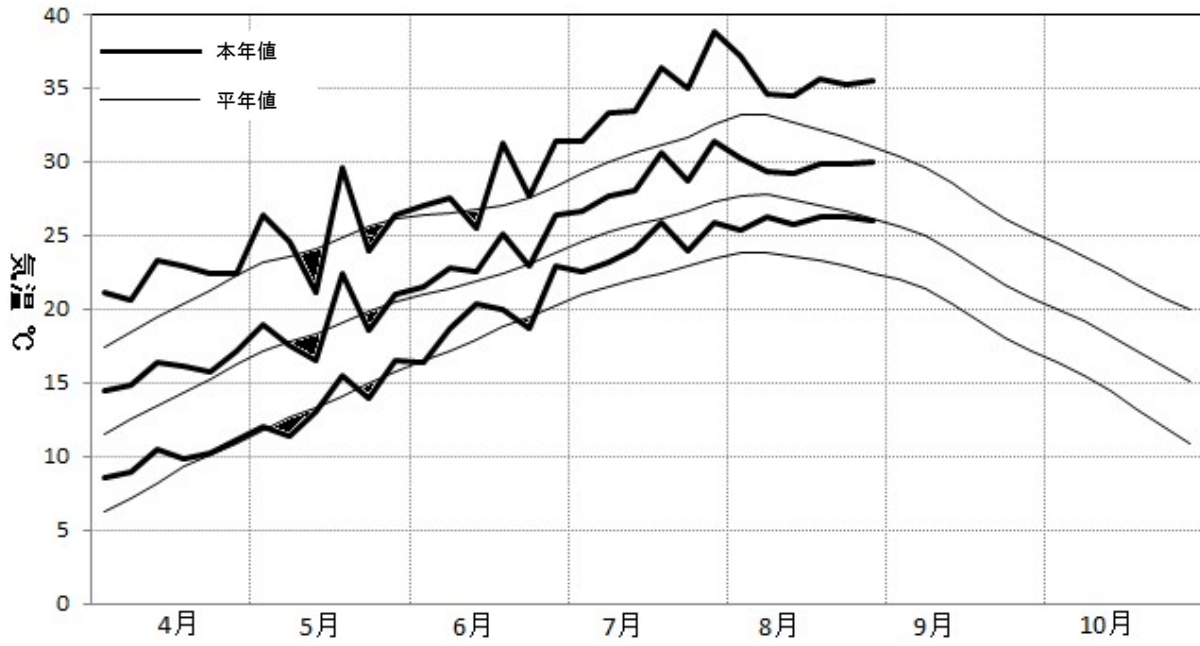
(2) 出穂、成熟

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/12	8/14	-2	8/14	8/17	-3	8/17	8/20	-3	9/30		

注) 平年値は平成27年～令和4年の平均。 平年比は%

(3) 生育経過





令和5年夏作期間気象図

(熊谷気象台日別測定値から作成)